

日子山神社風流【ひこさんじんじゃぶりゅう】



開催場所

柳川市古賀

開催日

10月13日

日子山神社の秋祭りで、これまで10/10に行っていたものを体育の日に合わせたもの。

指定

福岡県指定無形民俗文化財

【芸能の概要】

元和年間(1615~1623)の頃、古賀の村境を流れる沖端川に流れ着いた蓑をかぶった大臼を子ども達が拾い上げたところ、臼の中から輝く鏡を発見、不思議な瑞事(ずいじ)と喜び、鏡を神社に奉納し更にこれを記念し、その喜びを風流として具現、後世に伝えたのが日子山神社風流の由来とされている。

開始されて以降、現在まで継続して行われ続けている。昔は祭りの運営に厳格な規則があり、違反者には罰金(ほとんどが物納)の制度もあったという。戦時中も休止することなく、濡れた布を鉦に貼り付けて音をなるべく出さないようにして風流を行っていたという。昭和33年には県無形民俗文化財の指定を受け、現在では保存会が中心となって伝承活動に努めている。

【芸能の特徴】

日子山神社風流は旧暦2月15日に行う粥占による豊作の願立てに対する願成就の行事として行われる風流。風流の多くの舞手は「シャグマ」等と呼ばれる毛のかつらを被っているが、この風流は特徴として二枚の扇と色鮮やかな切り紙で造った獅子頭を被る。風流は楽器を持った者を中心に行列で進行し、囃子を奏しながら移動する。風流の初めは日子山神社境内で神事後、2名の舞手が舞う。その後、行列を組み下宮に向かう。下宮で舞いを奉納すると、定められた民家を行列で回って舞いを奉納する。最後に日子山神社に戻り舞い納め、奉納を終了する。

【使用する祭具・道具など】

本太鼓が使用する大太鼓の他、鼓と鉦が使われる。鼓打ちは青年男子が行い、本太鼓と舞方を囲むようにして立ち、鼓を打つ。鉦は直径30cmほどあり、男女の子ども達が5つの鉦を一齐に打ち鳴らす。鼓と鉦、大太鼓の音が一齐に鳴り響く様子は壮観である。いる。

・アクセス

西鉄柳川駅から車で15分

・周辺の観光

白秋記念館、柳川川下り、むつごろうランド
御花・松濤園
水郷柳川川開き(2月)
柳川ひな祭り・さげもんめぐり(3月)
白秋祭前夜祭・白秋祭水上パレード(11月)
長谷建とうふ忌(12月)
いちじく、巨峰、海苔、うなぎ料理

・近くの特産品

いちじく、巨峰、海苔、うなぎ料理。

